

## 提案審議課題内容及び関連する主な取り組み内容

No.	氏名	提案審議課題内容 (アンケート回答内容)	関連する主な取り組み内容など	関連事業
1	金光委員	現在区内では自主防災組織が各自治体内に設立されており、一見防災に対する備えが完備されていると思えるが、緊急災害時における緊急医療体制が全く出来ていない。医薬品の備蓄、医薬品の緊急調達方法、医療機関の連携、看護体制、避難所における医療体制の不備、患者運送の手段、受け入れ病院との連携、等々 麻生区の事業計画書には具体的な記載がなされていない。	・川崎市地域防災計画・麻生区地域防災計画の中で医療救護活動体制を定めている。 【関係団体】医師会、病院協会、歯科医師会、薬剤師会、看護協会、柔道整復師会	I-1~4
2	魚本委員	災害時の横の連携の為に地域のつながりをいかに構築するか 自主防災組織と災害時の障害者の2次避難所との連携	・川崎市地域防災計画の中で、災害時要援護者対策の中で社会福祉施設（二次避難施設）と位置付け、地域の協力による防災体制の推進を定めている。	〃
3	柳島委員	麻生区交通空白地域、交通不便地域へのコミュニティ交通（バス通行等）について。	・川崎市コミュニティ交通支援審査委員会において全市的な検討を実施 ・コミュニティ交通導入の支援及び補助金交付に関する要綱で、具体的支援方法などを定めている。	I-5
4	東川委員	① 地域の活性化或いは住みやすいまちの条件として地域内外のアクセスが重要な課題である。麻生区民にとって地下鉄導入の再検討、並びに交通不便地区の解消、CO2の削減問題或いは高齢化に伴う移動手段等の観点から自家用車からコミュニティバス方式などへの移行検討。 ② 新百合ヶ丘駅北口周辺の再整備化―車と歩行者の分離（立体方式）、駐車場の立体化、世田谷街道のflyover（立体交差）、バリアフリーの促進など。	・コミュニティ交通関係は上記3参照 ・新百合ヶ丘駅周辺のバリアフリー化については、重点地区に指定されており、順次整備を実施	I-5~6
5	金光委員	コミュニティで介護を下ささえる社会環境の実現	・川崎市高齢者保険福祉計画・介護保険事業計画において、「地域ケア体制の充実」・「いきがい・健康づくり」等を盛り込み、町内会・自治会、関係団体、事業者などと連携した高齢者の見守りの強化や社会参加に向けた取組みの推進を実施 ・いきいき（老人福祉）センター、（老人）いきこの家の運営を通じた、各種相談の実施や介護予防に向けた取組み等の実施 ・各種制度（福祉電話相談、緊急時通報システム、災害時要援護者避難支援など）による支援の実施	II-1~4
6	菅原委員	高齢者が安心して生活できる環境づくり		
7	田中委員	麻生区 自殺低減作戦 H. 〇〇年に、自殺率(自殺者数/人口10万人)9.9以下を実現	・川崎いのちの電話の実施 ・保健福祉センターでの各種相談・指導等の実施 ・精神保健家族講座の実施 ・アディクションセミナーの実施	II-5~6
8	福田委員	福祉施設の地域での役割と連携のみちすじづくり		
9	菅原委員	子育てしやすい環境づくり	・区役所を地域の総合的な子育て支援の拠点として整備し、相談窓口の開設や子育て人材バンクの実施。 ・子育て支援センターの拡充 ・こども文化センター、わくわくプラザの運営等を通じた支援や環境整備	III-1~6
10	田中委員	働くおかあさん がんばって！作戦 ①H. 〇〇年に、待機児童ゼロを実現 ②H. 〇〇年に、多様なニーズにきめ細かくこたえる保育モデル施設を開設	・「保育緊急5か年計画」において、今後の整備計画などを盛り込みそれに基づいた整備を実施	III-7~10
11	山崎委員	地域の子育てと遊び場を考える（調整池の利用）	・川崎市次世代育成支援対策行動計画に基づいた遊び場の整備	

12	金光委員	高齢化の進展で益々健康維持が老後の幸せを保障する大切な関心事になってくる、老若男女が共に参加でき、健康維持杜スポーツを通じての仲間作り、コミュニケーションが出来る文部科学省が進める総合型地域スポーツクラブの設立推進を図る。	・総合型地域スポーツクラブを育成して、スポーツ振興を推進 (設立時の支援、広報支援)	Ⅲ-1 1
13	菅原委員	大学生等との連携しての活動	・麻生区4大学(昭和音楽大学、玉川大学、田園調布学園大学、和光大学)公学協働ネットワークなどを活用した連携事業の実施 ・専修大学インターンシップ制度等を活用した連携事業の実施	Ⅲ-1 3
14	魚本委員	・老人いこいの家がこども文化センターと合築されているが、双方の交流が難しいと聞いている。意識して協働できる仕組みを考えられないか。 ・中・高校と大学との連携・ボランティア等	・第2期区民会議において、専修大学と協働してエコバッグ作成を通じた異世代間交流を実施	Ⅱ-2 Ⅲ-5
15	菅原委員	子育て世代と高齢者との日常的な交流の場づくり		
16	土井委員	私の住む町は住民同士の人の繋がりや接点の機会が少なく、一般区民は地域に出る機会が少なすぎると感じています。住みよい町は「明るい元気な豊かな町、みんなが希望の持てる町」であり、これには「地域のコミュニティシステム」作りが必要であると考えます。例えば麻生区の65歳以上高齢者は3万人(約5人に1人)を超えますが、高齢者が活動や趣味を広げる場や機会が少なく「長生きしてよかった」と言えるような地域になっているか疑問を感じます。一方でこのような高齢者の今後の健康維持も大きな課題となってきます人は人との関わりや繋がりでも幸せや生甲斐を得るものであり、家から外に出て周りの人達と接することで、別の生きる力を持つことが出来ます。例をあげれば、学童のお世話、買い物不自由・難民への支援、家事手伝い(簡単な保全修理・庭手入れ等)等を、自由時間豊富なOBOGや高齢者が中心となって活動し、それぞれのOBOGや高齢者が地域と何らかのかかわりを持って、生活に励みを持ち健康維持に役立ててもらおう。このようにして「地域で助け支えあえるコミュニティシステム」を作り、OBOGや高齢者にそれぞれの居場所を提供して、仕事や家事等に励む人達にも安心して暮らせるような町にしたいと思います。	N05、6参照 *第4期川崎市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画に定めている、地域ケア体制の充実等で「見守りネットワーク」の取組みを推進	Ⅱ-1~4
17	福田委員	川崎市で数少なくなった、農地を含む自然環境の保全活動に麻生区の市民・団体・施設を含めた地域全体が、どのように関わっていくのかのみちすじづくり。	・「川崎市緑の計画」の区別方針では、早野聖地公園、王禅寺ふるさと公園等の「緑の拠点」の整備や、黒川・岡上・早野地区を「緑と農の3大拠点」をして、農地の保全や環境学習の場の拠点などから、里地、里山環境の保全と「農ある風景」の継承を求めている。	Ⅳ-1~8
18	山崎委員	緑と農を考えていきたい。	N0.17、23参照	〃
19	勝田委員	麻生区の最大の地域特性は、他区に比べて緑地が多く市の緑地面積の1/2は麻生区が占める。また、川崎市の市街化調整区域の95%は麻生区にあり農と緑は麻生区にとって如何に重要であるかがわかる。しかし、この貴重な緑地も手不足で手入れが行き届かない緑地も多く市民の力で保全管理することができないかと思う。そのために里山ボランティア制度を作って区民参加の協働により麻生区の緑地保全活動を進めるべくその基礎(基盤整備)となる組織づくりをしたいと思う。これは当に、地権者・区民・行政が一緒に進める協働作業によってしかできないことである。	・里地・里山の保全のため、市街地調整区域内における植樹林を農業振興施策と連携して保全するため、農業者と里山ボランティア等と連携した取組みの実施	Ⅳ1~4
20	東川委員	緑の保全、創出、育成の再検討と緑地、公園の維持管理のあり方、評価制度の導入、現在開発中の古沢地区の緑の保全、隣接都市との連携した行動計画の推進など。	・早野地区農業振興地域内の活性化に向けた検討委員会での検討実施 ・黒川地区での市民と農との触合いの場の提供 ・公園の管理を管理運営協議会を中心にして実施 ・古沢地区土地区画整理組合準備の設立	Ⅳ1~7

21	金光委員	家庭からのCO2排出量減少を目的に家庭エコ活動の拡大展開を図る	・「まちづくり市民の会」での、環境家計簿の取組みの展開	IV-8
22	天野委員	2期からの提言にあった「エコのまち麻生の推進」は、スタートしたばかりで、まだ形にはなっていません。これを継続・発展させていきたいと思ひます。 ・区役所ロビーでの生ごみリサイクル相談会や 生ごみ堆肥による写真展 地産地消の取組など継続&発展 ・関連団体、関連機関との連携 ・レジ袋削減、ごみ減量、自然エネルギーや省エネなど 地球温暖化防止対策の新規取組	・第2期区民会議においては、環境局等と連携を図りながら、全市的な取組みであるカーボンチャレンジかわさき（CCかわさき）や生ごみリサイクルプランなどの推進に向けた取組みを実施。	IV-8～11
23	大高委員	環境問題に興味があります。環境部会に所属し、「エコのまち麻生」をさらに推進してゆきたいと考えています。（個人的には、太陽熱温水器、風力発電機、非電化冷蔵庫などを製作してみたい）	・自然エネルギー推進実行委員会を中心した普及・啓発活動を実施 ・当区役所では、他区に先駆け太陽光発電設備は設置済み。	IV-8
24	菅原委員	2012年には区制30周年を迎える時こそできる「区民参加と地域づくり」について検討	・区制30周年世話人会を立上げ、今年度中に実行委員会を設立予定	協働推進
25	菅原委員	区政30周年を記念して麻生区をイメージする「区民の木、区民の花」の決定にむけての取組みについて検討	・上記実行委員会を中心に、区民意見の募集方法などについて検討予定	〃
26	武濤委員	これまでの区民会議で、「川崎・しんゆり芸術祭」を中心としてさまざまな実践がなされてきたが、その実績をさらに広げ、深める活動（麻生区の地域コミュニティの特性を生かしたネットワークづくり、区内外への情報発信機能の強化など）を検討したい。	・「川崎・しんゆり芸術祭」は、来年度以降も市民文化室を中心に実施予定。 ・区でも、NPO法人、民間企業の行う事業への支援や「麻生区音楽祭」など各種イベントの実施、芸術関係情報の収集・発信を実施中。 ・今後、文化に関する事業についても検討中。	VI-1～3
27	石井委員	新百合ヶ丘は、芸術の街のイメージが浸透し「しんゆり・芸術のまち」と全国紙の新聞でも取上げられていますが、新百合ヶ丘が川崎市の地名だと誤解している人も多く、麻生区の芸術のまちとして情報発信を図る。	・上記26参照	VI-1～3
		新百合ヶ丘駅の周辺には、昭和音楽大学、アートセンター、麻生市民館他があり、多くの演奏会、上映会が行なわれていますが、何の演奏会が開催されているかわからない人、地域が多いです。これらの会場では月間でもよいので、麻生区内、特に駅が違う「はるひ野」「黒川」「栗平」はもとより、柿生、岡上その他の地域での情報掲示板の設置、PR等が図れればと思います。あるいは、麻生の巡回バスの中とか市バスの中を利用することでも情報発信ができればと思います。	・上記26参照	VI-1～3
28	菅原委員	文化芸術のまちづくりをめざしていることから第2期に一定の効果をおげ「今後も芸術祭を盛り上げる企画必要」と提言されていることから継続検討課題と思ふ	・第2期区民会議において、側面支援を実施（小中学生の絵画展、美化清掃）	VI-2
29	魚本委員	市民利用施設、活動支援拠点施設の連携ネットワーク	・第2期区民会議において、こども文化センターの連携に関する提言有り。	VII 2～3
30	竹市委員	巷に情報は氾濫の様相だが、必要とする人に求める情報が届いていない現実もある。区民が、欲している情報を容易に入手できる様にするため、区内に散在する多種多様な情報を整理し統合して、(仮称)「あさお情報センター」を設ける。ーまずは電子媒体で始めるー 1. 情報掲示板…イベント、セミナー・学習会、祭り、ボランティア募集等の情報を掲載 2. 活動支援情報…活動団体、活動の場所・施設、活動に必要な人材、活動に必要なお金等に関する情報の提供及び紹介、相談等 3. 情報ネットワークの促進	・行政情報は、「市政だより」「ホームページ」「広報掲示板」などを通じて広報 ・市民活動支援については、「市民交流館やまゆり」「市民館」を中心に相談等を実施	VII 2～4

31	菅原委員等	区民参加の麻生区づくりの検討と展望など区民の声を聞くフォーラムの開催、まとめ小冊子等	【第2期区民会議開催状況】 ・出前フォーラムの開催、生ごみリサイクルと地産地消フォーラム、区民会議フォーラムを実施	
32	植木委員	いろいろな麻生区の課題については4年をかけた1期・2期で当然、出尽くしているはず。3期では【その課題解決の担い手を何処に求めるか?】また【どのように育てるか?】を取り組みたい課題とします。 ついては、区役所の縦割り行政では解決できない問題、区民だけでは解決できない問題に対して区民会議は触媒的な役割を果たすべきと考えます。		
33	福田委員	第一期、第二期の委員さんが取りまとめた内容をもう一度精査する機会も与えていただければ、と思います。良いものは継続し、よりよく変えていければと考えております。		
34	天野委員	地域交流部会の取組継続		
35	部会提案	町内会・自治会との連携		